

無人ヘリコプター防除 安全飛行

ポイントを確実に実行、事故ゼロを目指して



散布実施者(オペレーター・合図マン)と散布委託者(実施主体)は、「現場の情報」を共有し、協力しあうことで、より一層、適切な対策が図れます。

現場ごとに散布環境が異なりますので、散布現場に対応した総合的な対策を講じて下さい。

散布時の事故防止にあたっては「散布ほ場及びその周辺の事前確認の強化・徹底」「オペレーター・合図マン等の連携強化」が重要なポイントです。

実施主体にお願いする対策

散布地区 の設定

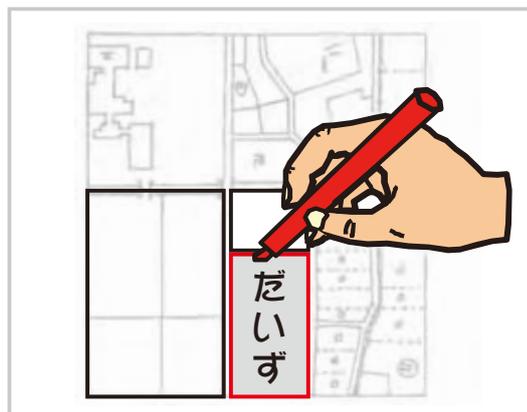
- 危険箇所(電線、電話線、引込線、支線、架線、光ケーブル等)及び除外ほ場(だいず、野菜、花卉、有機栽培、ハウス等)の情報を把握して下さい。
- 交差する電線の周辺等散布に適さないほ場は除外して下さい。

見落としやすい場所



散布地図 の提供

- 散布ほ場及びその周辺の栽培作物、危険箇所等の情報を散布地図に具体的に書き込み集約させて下さい。
- 散布実施前までにオペレーター・合図マンに、散布地図を提供して下さい。



情報の 把握・共有

- 散布前の安全研修等を開催し、散布関係者間の連携を強化して下さい。
- オペレーター・合図マンとともに確認し情報の共有をして下さい。
- 周辺の他作物栽培者等の関係者へチラシ等で実施情報の事前連絡をして下さい。

情報の
周知徹底



散布 地図作成 ポイント

- 散布地図は地域の実態のわかりやすい地図を使用して作成して下さい。
- 散布ほ場、危険箇所及び除外ほ場などがはっきりとわかるようにして下さい。
- 危険箇所等は赤色で、電線、電話線、引込線、支線、架線、光ケーブルなどを記入し、同様に除外ほ場(だいず、野菜、花卉、有機栽培、ハウスなど)も記入して下さい。
- 危険箇所や過去の事故等の情報は、散布地図に記載し、保存するなどにより、次回以降のオペレーター・合図マンに確実に引継いで下さい。

散布地図 の例



散布ほ場



危険箇所

(電線、電話線、引込線、支線、架線、光ケーブル など)

除外ほ場

(だいず、野菜、花卉、有機栽培、ハウス など)



赤色で記入

オペレーター・合図マンが行う対策

現地確認 の徹底

- オペレーター、合図マンは、実施主体と協力して事前に現地確認（現地下見）を実施して下さい。
- 実施主体から提供のあった散布地図に記載された危険箇所を確認して下さい。
- 記載されていない危険箇所がある場合、散布地図に追加記入して下さい。
- 引込線、支線等の見にくい危険箇所は、特に念入りに確認して下さい。



散布方法 の見直し

- 現地の情報を踏まえ、飛行経路、人員配置の再検討をして下さい。
- 実施主体と再検討後の情報を共有して下さい。



連携強化

- オペレーターの注意不足や思い込み、目測の誤り等を合図マンは補って下さい。
- 合図マンは散布状況を常に的確にオペレーターに伝達して下さい。
- オペレーターと合図マンは、互いに合図を復唱し、反復確認を行って下さい。

